

ボランティアに関心のない
普通の学生が社会人になっ
て、今では「すべてをかけた
い」と思ふほど入れ込んでい
る。宮土通のビジネス推進部
に勤める末岡直樹さん(30)
を交えたのは、会社のボラン
ティア休職制度だ。

サラリーマン

第473話

休職して参加した青年海外
協力隊の仕事は直車で、人生
綱が大きく揺さぶられた。未
岡さんは現在、会員約八千人
の協力隊の大坂府OB・OG
会の会費を務め、サラリーマ
ンとの「二足のわらじ」で奮
闘している。
会社の山岳部仲間と二人で
挑戦したアフリカ・ケニア山
への登山が、ボランティアに
のめり込むきっかけだった。
ケニアの首都ナイロビを助れ
たのは入社五年目、八八年の
夏「アフリカで多数のビジネ
ス街だが、中心街から少し外
れると、貧しいスラム街が広

がっていた。現地の人が使っ
たバスに乗って郊外に行くこ
ろ、大きな「お」の音が立ち並
ぶ。
「こんな所にこんな風にな
が暮らしているんだなあ」
途上国の貧富の差を目の当た
りにしたショックはずっと忘
れられなかった。

途上国への思い募り

④

帰国して、途上国のため
に何か手助けできないかと
考え始めたころ、通勤電車で
「青年海外協力隊の隊員募集」
の中づり広告が目に入った。
技術者の募集もあり、システ
ムエンジニアの末岡さんは心
が動いた。

自分が持っている技術が
生かせる、とひらめいたが、
問題は「二年以上」という期
間。会社を辞めなければなら
ないと躊躇(ちゅうちゅう)す
る気持ちもわいてきた。

ちよらとこのころ、会
社がボランティア休職制
度を導入した。辞めず
に参加できる。幸運に
も道が開けた。九〇年秋、
試験を受けた。専門のシ
ステムエンジニア。一回
で合格した。「アフリカ
に行きたい」という思い
が強く、面接でも「ケニ
アかタンザニアに行きた
い」と力説したが、派遣

先は最終的に中近東のヨルダ
ンに決まった。それでも「途
上国を手助けできれば、どこ
でもいい」と割り切った。

九一年秋に派遣される予定
だったが、訓練に入る前に同
じ山好きの弟がフランスで遭
難、死亡した。父親を、十七
歳の時に亡くし、母親を、人
質して一年間、日本から解れ
るのが心配になってきた。

母親に「辞退する。状況が
落ち替いたら、もう一回試験
を受けて必ず行く」と話した。
言いだしたらもうとける性格
を知っている母親は「もっと
後で行かれるより、今行って
もらった方がいい」と言っ
てくれた。九二年一月からボラ
ンティア休職をとり、訓練を
終えた四月、末岡さんはヨル
ダンへ飛び立った。



仕事の後には会長職でも忙だ